



過去最高の全国3位！
勝山南部ジュニア報告会

■8月5日 勝山市役所
7月末に京都府長岡京市で開催されたバドミントンの第27回若葉カップ全国小学生大会男子の部で、クラブ史上過去最高の3位入賞を果たした勝山南部ジュニアのメンバー8人が、山岸市長に報告のため市役所を訪れました。山岸市長は「7年後の福井国体を目指して頑張ってください。」とエールを送りました。



市内の国登録文化財
登録証とプレートを交付

■8月12日 料亭板甚蔵座敷
国登録文化財に指定された「料亭板甚蔵屋敷」(本町2丁目)に、市から文化庁の登録証とプレートが交付されました。同時に国登録文化財になった深谷家住宅洋館(元町1丁目)、旧料亭花月楼(本町2丁目)にも8月24日に交付されました。



特別展開催中
「大坂加番 仰せつけられ候」

■7月24日 勝山城博物館
江戸時代に勝山・大野両藩が大坂城の警備(加番)を何度も務めていたことが分かる資料などが多数展示されています。特別展は、10月10日まで毎日開催されています。

地域の防災リーダーを養成
防災士養成講座始まる



■8月27日 教育会館
防災士養成講座の開講式が行われ、市内から184人が参加しました。記念講演の後、資格取得に必要な普通救命講習が行われました。講座は11月に3回開催され、最終日に資格試験が実施されます。

災害への対応力強化へ
集団災害訓練を実施



■8月31日 旧エコマーケット駐車場
短時間で多数の負傷者が出たとの想定で、集団災害訓練が市医師会、永平寺町消防本部、奥越健康福祉センターも参加し行われました。



関西学院大学ワンゲル部と交流会

■8月24・25日 東山いこいの森キャンプ場
勝山市と交流がある関西学院大学ワンダーフォーゲル部の学生たちが、市内の小学生17人と1泊2日のキャンプで交流しました。この事業は8年目を迎えています。子どもたちは元気いっぱい、学生たちとドッジビーやイワナのつかみ獲りを楽しみ、夕食の準備も力を合わせて行いました。

歴史の散歩道 (131)

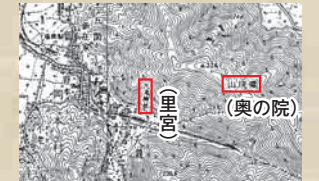
大滝神社があるところは、和紙の里の権現山(大徳山)の麓である。この大滝神社は「大滝神社」と「岡太神社」の二座からなる。この二つの神社は由緒があり、近郷の人々の信仰が厚い。

大滝神社と平泉寺

和紙の里の神様は川上御前

さて、この地で和紙を生産するようになったのは奈良時代まで遡ることができ、正倉院に残る写経の用紙に使われていた。大滝・定友・新在家・岩本・不老の五か村をまとめて五箇と言ひ、この地で奉書紙や鳥の子紙などの上質な紙が漉かれてきた。

建立され、社僧が神事を司った。大滝寺は近郷の村々を支配し、隆盛をきわめた。中世の大滝寺について、神社境内の案内板には「中世には大滝寺は平泉寺の末寺となり、四十八坊の堂塔伽藍が山頂山麓に並び、社僧も六、七百人を擁して隆盛を極め、神領七十余町、日野川以東の村落四十八ヶ村を氏子とするに至った」とある。平泉寺は朝倉義景が自害した天正元年(一五七三)の翌年まで大滝寺を差配した。現在の奥の院の大滝神社は里宮(下宮)と奥の院(上宮)からなり、里宮の本殿・拜殿は広い境内に偉容を誇り、重要文化財に指定され、また奥の院には大滝神社と岡太神社の社殿が建っている。文化財保護委員 佐野光臣



大滝神社(里宮)と権現山(奥の院)地図



奥の院の大滝神社の社殿

こども図書

「津波ものがたり」
山下 文男/著 童心社
津波はどうして起こるのか？津波のまえにはいつも引き潮があるのか？大地震のあと津波がくるまでの時間は？津波について、心得ておくべき知識を分かりやすく説明する。

「そのこ」
塚本 やすし/絵 晶文社
ガーナという国には、学校に行くこともできず、働きつけるこどもがいる。「そのこ」はこどもなのに、お金をかせいでいて、そのお金で、大人は食べ物を買うのだ。「そのこ」の一日の様子を描く。

おすすめ図書

「日本男児」
長友 佑都/著 ポプラ社
5年前、明治大学のサッカー部の応援で太鼓をたたいていた彼が、なぜ世界一のクラブチーム・インテルに入ることができたのか？今、最も「熱い」男が、これまでの軌跡の全てを綴る。

「『守り人』のすべて シリーズ完全ガイド」
上橋 菜穂子/著 偕成社
女用心棒バルサと皇子チャグムの運命を軸にしたハイファンタジー「守り人シリーズ」のパーフェクトガイド。書き下ろし短編「春の光」などを収録。

一般図書

「男も更年期で 老化する」
和田 秀樹/著 小学館
ホルモンや神経伝達物質の減少などに伴って訪れる「更年期」をうまく乗り切らないと、肉体も精神も老け込んでしまう。どうしたら「老化の勝ち組になれるか」その答えが本書にある！

「『うま味』を発見した男」
~小説・池田菊苗~
上山 明博/著 PHP研究所
「うま味」は「甘味」「酸味」「塩味」「苦味」と並ぶ基本五味のひとつ。それを世界で初めて発見し、「味の素」の生みの親である化学者・池田菊苗の波瀾万丈の生涯を描く。